ビッグ・アイ　コミュニケーション情報紙

i-co（あいこ）

BiG-i Communication Paper

The title of our information paper “i-co” is pronounced the same as the Japanese word “aiko,” which means here an equal relationship where no one wins or loses. The purpose of this free paper is to offer useful information for everyone, with and without disabilities, with the motto of “Sharing and Caring.”

2014 October vol.16

「あいこ」は、勝ちも負けもない対等な関係を表す言葉です。「あいこ」は、この分かち合いの精神で、障がいのある人ない人にかかわらずお役に立つ情報を発信します。

50/50
お互いさまという発想

i-feature

ろう者の女優・大橋ひろえさんと聴者の女優・大窪（おおくぼ）みこえさん。
二人の芝居「名もなく 貧しくもなく 美しくもなく ～最強じゃない2人～」は、大橋さんの手話と大窪さんの声で会話を繰り広げる芝居です。聞こえる人も聞こえない人も、お互いにどんなことを言っているのか推理しながら観るという「お客さんに優しくない」芝居は、「演じる側も観る側もハンデをもつ舞台」として話題になりました。
今秋、この舞台が再演されるにあたり、同作の作・演出を手掛けた喰始（たべ はじめ）さんに制作のきっかけや作品にこめられた想いをうかがいました。

ワハハ本舗
喰 始 たべ はじめ

ワハハ本舗主宰であり、代表取締役であり、演出家であり、放送作家。放送作家として、「ゲバゲバ90分」「カリキュラマシーン」「欽ちゃんの仮装大賞」など、沢山の伝説的なバラエティ番組を生み出す。1984年に私財を投じてワハハ本舗を結成。ワハハ本舗全作品の作・演出を手掛ける。

実験コメディー芝居
名もなく 貧しくもなく 美しくもなく ～最強じゃない2人～
作・演出　喰 始
出演　大橋ひろえ・大窪みこえ
初演　2013年11月（新宿ゴールデン街劇場）

《あらすじ》
ある日、知子（大橋ひろえ）は引っ越しをするために、インターネットで手頃なルームシェアの物件を探していた。その中でひとつ自分の条件にあったものを見つける。それは「静かな人である」ということ。なぜなら、彼女は聴覚障がいだからだ。早速その部屋のオーナーである礼子（大窪みこえ）に自分の身の上を話すと、なんと礼子はちょっとだけ手話が話せるという。めでたく一つ屋根の下でルームシェアを始めることになったのだが、二人の生活は、最初からかけ違いが多い部分があったのだ。果たしてこの二人、うまくやっていけるのであろうか。。。

大窪みこえさん　大橋ひろえさん

11/23・24
BiG-i
ART FESTIVAL 2014で
再演決定！

詳しくはビッグ・アイホームページへ
http://big-i.jp/

お互いさま という発想

インタビュー：鈴木京子（国際障害者交流センター 事業プロデューサー）

50/50（フィフティ・フィフティ）

演じる側も観る側もハンデをもつ舞台。このような舞台をつくろうと思ったきっかけは何だったのでしょうか？

ワハハ（本舗）の大窪みこえが、大橋ひろえさんと二人で芝居をやったことがあるんだけど、その時、僕はスケジュールが忙しくて観に行けなかったんですよ。きっかけは、単にそれだけなんですけどね。それで、みこえは酔っぱらったら絡んでくるんだけど、「何で観に来てくれないんですか！」ってうるさく言うんですよ。だから、「どういうことやったの？」って聞いてみたら、みこえも手話を覚えて大橋さんと芝居するって言うんです。僕は、「それじゃあおもしろくないんじゃない？」って、「演じる側にハンデがあるんだから、観る側にも、健常者にもハンデをつくりたい」って言ったんです。つまり、演じる側のみこえが大橋さんの手話がわからない、大橋さんがみこえの言ってることがわからないというのと同じように、それを観るお客さんにとっても、聞こえない人は大橋さんの手話を見ればわかるけど、みこえの言ってることはわからない。反対に、聞こえる人は手話の方がわからないというように、どちらかの側に寄るんじゃなくて、お互いに50/50になるようなものができればいいなと思ったわけですよ。

ただ、そのあたりが非常に難しいところで、実際に動かしてみるとなかなか伝わりづらい部分があるんですよね。大橋さんは耳が聞こえないけど言葉はしゃべれるので、聞こえる人の方は何とかわかるんだけど、聞こえない人にはわかりづらかったり…。そういったところであーだこーだと工夫しながらつくったんだけど、とにかく両方が「全部はわからない」というので良いと、そういうことをやりたくて始めましたね。

ご自身では、障がい者による舞台や障がい者を対象とした舞台を観られることはあるのでしょうか？

この舞台をきっかけに、障がい者のための舞台なんかを観に行くことがあるんだけど、これはおもしろいなというものと、これは健常者の側に寄りすぎてないかって感じるものがあるんですね。僕が観て一番おもしろかったのが、黒柳徹子さんが主宰しているろう者の狂言*1。これが本物の狂言よりおもしろかった。普通、狂言はセリフを口で言うから動きは静かなんだけど、ろう者の狂言は手話を使った大きな動きがあるので、すごくおもしろかった。こういう表現をするんだなって。こういうかたちで、伝えるという部分と舞台上の表現がうまい具合に融合していければいいなということを考えてますけどね。

*1　黒柳徹子さんが主宰しているろう者の狂言
…社会福祉法人トット 基金「日本ろう者劇団」による手話狂言。

ビッグ・アイの舞台では、障がいのある方にも鑑賞していただくために、手話や字幕など、さまざまなサポートを行っています。いつもサポートを加えて情報を補うことばかり考えてしまうので、「健常者にもハンデを」という舞台の楽しみ方があることに驚きました。

外国に行くと、言葉がわからないじゃないですか？舞台でも音楽があればそれに助けられることもあるけど、会話だけの芝居だったら、その言語がわからないと何のことやらさっぱりわからないですよね。それでも「言葉はわからないけどおもしろいなぁ」とか、「怒ってるんだな」「悲しんでるんだな」ってことはわかるじゃないですか。だから耳が聞こえないといったハンデのある方へのサポートは必要なんだけど、そうじゃなくて、わからないことがあるとか、そういうところは「お互いさまじゃないの!?」というような発想で舞台をつくれないかなとは思いますね。

舞台では、字幕もほとんどつけられなかったですよね。

それはやはり、まずは50/50でつくろうと思ったからなんです。芝居の中で大橋さんが書いている日記がスクリーンに投影されて、字幕の代わりを務めるところがあるけど、こういった演出は他の芝居でも使われるものだから、それと一緒でいいなと思って。セリフにいちいち字幕をつけるんじゃなくて、芝居の演出にある方法論を使えば出来ちゃうこともあるので、そういうことを模索しながらやっていけばおもしろいなと思っています。

ハンデがあるからこそ

今回、大橋さんという障がいのある女優が舞台に立たれましたが、障がい者が表現者として舞台に立つことに関して、舞台をつくる側としては、何か考えられたことはあったのでしょうか？

きつい言い方かもしれないけど、障がい者とか差別とかどっちもどっちだっていう気があって、障がい者であろうが外国人であろうが、素人だろうがプロだろうが、僕にとってはあまり関係ないんですよ。僕のつくり方っていうのが、だいたいまず口立て*2で、「こういう設定であなたたち二人だったら、どういうセリフで、どういうことが起きますか？」ってつくらせるんですよ。「どうしてなの、これは？」「うーん…っと、それは…」って。それを元に僕が書いたり作家に書いてもらったり、作家をいれずに二人で完成させることもある。だから台本が出来るまですごく時間がかかるんだけど、耳が聞こえないということがあったにしても、コミュニケーションさえとれればおんなじだと思ってるんですね。筆談でつくってもいいし、もっと言えば、筆談を使った芝居になってもいい。

*2　口立て…台本なしで口頭で芝居がつくられること。出演者に台本を渡さず演出家が口頭でセリフなどを伝える方法。

コミュニケーションや表現の方法は、音声だけじゃないってことですよね。

お互いに理解が得られないというような状況は、例えば外国人と日本人だったり、夫と妻だったり、男と女という中にもあるじゃないですか。それがある種のテーマだったりするんだけど、障がいがある人とない人のコミュニケーションや表現の方法は、まだまだいくらでもあると思うし、全然何でもないことだと思ってるんですよ。

そう考えるようになったきっかけというのは、何かあるのでしょうか？

講演会でもよく話すんだけど、35年くらい前にインドに行ったことがあって、そこで「物乞い」っていうのは立派な職業であるということを自覚したわけですよ。インドには階級差があって、職業も簡単には変えられない。だから物乞いの母親は、立派な物乞いになって多くを恵んでもらえるように、子どもの手足を切って障がい者にしてしまうというようなことが書かれたものも事前に読んでたんだけど、実際に行ってみると、やっぱりいろんな物乞いがいたんですよ。お金を出して借りてきた赤ん坊を抱いて「お恵みを」ってのもいれば、やせた手にのせたお椀を差し出してずーっと微動だにしないのとかね。いろんな物乞いを見てるうちに、これは

パフォーマンスなんだってわかってくるんだけど、そんな中で出会ったのが、両足のない12歳くらいの少年だったんですよ。彼は毎朝、スケボーのような車輪のついた板に乗って、僕が泊まってる安宿に、「ハロー・ジャパニ！」って挨拶をしに来るんですね。でもそこには「お恵みを」がないんですよ。挨拶だけなんです。「ハロー！」って。そうすると一日が楽しくなってくるんですよね。でも悔しいから追いかけてって、「バカヤロウ！」ってお金を握らせるわけですよ。それでも「くれ」って言ってるんじゃないんです。その時に僕は、「一生かかってもこいつには勝てない」と思ったんです。自分の人生で何やっても勝てないと。その思いが根っこにあるんですよね。だから、障がい者だろうが何だろうが関係ないと。自分が認めた人は、認めてすごいなって思ったらすごいんですよ。そういう感覚ですね。

喰さんにとっては、舞台の上に立った時にその人の表現力や演技力があれば、障がいや年齢や国籍は関係ないということなんですね。

そうなんです。あの芝居の中でもまだまだ出来ていないことがあって、大橋さんに作詞作曲をやってもらおうと思ってるんですよ。僕は手伝わないからねって（笑）。

耳の聞こえない人にわかるのは、基本的にリズムだけなんですよね。メロディはわからないだろうけど、それをなんとなくでいいからやってみてって…、それを大橋さん本人が歌うんです。

それはまた、すごい挑戦ですね。

そうでしょ!? ただ、不自由ということは、反対にハンデがあるからこそいろんなことが出来ると思うんです。例えば舞台でもお金がないから知恵を働かせて工夫するんですよ。それと同じで、障がいがあるってことは、あきらめないでそこから何か表現方法を見つけていけば、いろんなことが可能になると思うんですね。

ビッグ・アイでは、芝居や音楽のワークショップを開催することもありますが、障がいがあるために、そうしたことに参加するのをためらったり、舞台の上で表現することを自分からあきらめてしまっている人も少なくないと感じます。こうした芝居や芸術の分野で、障がい者が挑戦していけることは、まだまだあるということでしょうか?

あると思いますよ。あると思うけれども、残念ながらハンデっていうのは、例えば失礼な話だけど、容姿の問題もあるし、金銭的な問題もあるし、誰であろうとハンデはあるんですよ。だから、そのマイナス要因が強い人間の方が頑張るしかないんですよね。ところが世の中には、甘やかしたりすることがあるじゃないですか。「あなたはハンデがあるからね。気の毒な人なのよ」みたいな。その発想を一掃しないとだめだと思う。それは、いわゆる肉体的なハンデじゃなくても、精神的なもの、親からの虐待だとか学校のいじめがあったりとか、そういったことが今たくさんありますよね。だから、そういう人こそ強くなれる人、いいものつくれるぞって、負けなくなるよって。普通の人間たちは一度ショックがあるともう立ち直れなくて、自滅していくこともあるんだよって、だから、ハンデもプラスにとることができるんだよっていうことは伝えたいですよね。

「おもしろい！」を見つけるために

舞台の上に立つ側だけでなく、いろんな理由から舞台を観に行くことをあきらめてしまっている人も少なくないと感じます。大橋さんの話に、聴覚障がいの人には手話が読めない人も多いし、かといって字幕があれば皆が理解できるというわけでもない。それでもやっぱり「芝居はおもしろい」ってことを知ってもらいたいけど、なかなか見に行かない。そういうところでは、障がい者も少し勉強や努力の必要があるんじゃないかって話があったのですが…。

その通りだと思いますよ。ただ、映画とか舞台とか、そういったエンターテイメントっていうのは一番難しいところでもありますよね。会話劇だけでも成り立たないし、会話劇に全部字幕が出るならシナリオを読めばいいことだし、何でも字幕がつけばいいのかっていうものでもない。それでも大橋さんがワハハの公演を観に来られた時に言ってくれたことがあって、「音楽はわからないけど、ダンスは動いてる。それを見てると何か楽しいんですよ」って彼女は言うんですよね。

だから、サポートがないから行かないじゃなくて、もっともっと出てくるべきだと思う。障がい者もアンテナを張って、「これ、おもしろいわよ、私たちでも大丈夫よ」みたいなものを見つける努力が必要だし、「ここ、だまされたと思って行ってみなさい。嫌だったら二度と行かなきゃいいんだから」というようなことを教えてくれる人や団体があればいいよね。

おもしろいものを見つけたり、教えたりするためには、いろんなものを観に行く必要がありますよね。

3ガガヘッズっていう、おバカなパフォーマンスをやるのがいるんだけど、世界を回って公演をしてるんですね。なぜ外国でやってるかっていうと、しゃべらないからなんですよ。パントマイムとも違うし、ちょっと説明しがたいパフォーマンスなんだけど、そういうのがあるのを知らないんじゃないかな? それを耳の聞こえない人が見たらどう思うのかってことも知りたいですよね。

「観たい」と思うものを自分たちで探したり、選んだり、興味のあることにもっとアクションを起こしていけばいいというのは、障がい者にとっても健常者にとっても同じことですよね。それと同時に舞台をつくる側としても、楽しんでいただける人の対象を広げる努力が必要だと思います。
最後になりますが、今回の大橋さんと大窪さんのお芝居のようなものは、今後も続けていかれるのでしょうか?

続けていこうとは思ってます。ただ先に、浅草ワハハ本舗『娯楽座』の旗揚げ公演があるので、7月から12月まで月替わりで6本つくらなきゃいけないから、ちょっと大変なんですけど（笑）。これには英語と日本語の字幕をつけて、耳の聞こえない方にもわかるものにしようと思っています。

こういう字幕を出してもらえるようなお芝居がもっと増えたらいいですよね。

いいでしょうね。本当に増えたほうがいいと思うね。

この秋には間に合わないんだけど、今度ね、もっと難しいことをやろうとしてるんですよ。大橋さんとみこえと、つまりろう者と聴者、この片方が自殺しようとしてるのね、ビルの上から。

危機的状況ですね…。

そこにもう片方が時間を超えてワープして来るわけですよ、「あなたを助けなきゃいけない」と。言葉が通じないからどうしようみたいな状況なんだけど。で、なぜ助けなきゃいけないかというと、過去にこの人も自殺しようとした時に、タイムワープしてきたその相手に助けられたから、あなたに死なれたら私も過去で死んじゃうっていう、すごく難しいタイムパラドックスの話を二人芝居でやろうと考えてるんですよ。これはもう障がいとかそんなの超えてるんですよ。聞こえない、しゃべれないというところから、コミュニケーションをどう取り合って、お互いを助けることができるのかというものすごく難しいテーマをやろうとしてるんですけどね。

おもしろそう…

おもしろそうでしょ!!?

Information

ミュージカル「My School～私の学校が廃校になる時～」オーディション参加者大募集!!

プロの劇団員とミュージカルの舞台に立つチャンスがやってきました!
劇団アークスによるミュージカル「My School～私の学校が廃校になる時～」への出演者オーディションを開催します。

新たなステージへ! きっかけはここにあります!

オーディション開催日:11月2日(日)

- 対　象　障がいのある方で、下記の練習日・公演日に参加できる方。
- 練 習 日　12月6日(土)／1月31日(土)／2月1日(日)／2月15日(日)
- 公 演 日　3月1日(日)
- 応募締切　10月20日(月)

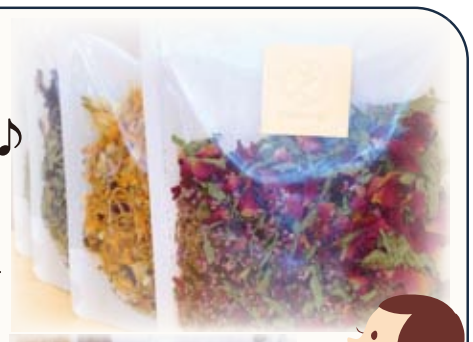
応募方法については、ビッグ・アイホームページ(http://big-i.jp)にてご確認ください。

問合せ　ビッグ・アイ「オーディション」係
TEL 072-290-0962　FAX 072-290-0972
Eメール audition@big-i.jp　ホームページ http://big-i.jp/ ビッグ・アイ 検索

Campaign

レストランぐらん・じゅ ハーブティーをはじめました♪

ビッグ・アイ　レストラン「ぐらん・じゅ」では、女性にうれしいハーブティーがご好評をいただいております。見た目も美しく、爽やかな香りのホットハーブティーを楽しみながら、癒しのひと時をゆっくりとお過ごしください。



あなたはどの色?

セットがおトク!

時 間　9:00～21:00(20:30ラストオーダー)

ピンク	ビタミンたっぷりの美肌ティー
オレンジ	女性にお勧めのリラックスティー
イエロー	代謝を高め体を温めるリフレッシュティー
グリーン	ダイエットや妊娠中の栄養補給に飲むサプリメントティー
ブルー	不眠や頭痛などのストレス緩和ティー

MENU

ハーブティー単品	450円
ケーキセット	600円
和菓子セット	600円

問合せ　ビッグ・アイ フロント
TEL 072-290-0900　FAX 072-290-0920
Eメール front@big-i.jp

Present!

プレゼントクイズ

ビッグ・アイ アートプロジェクト
オリジナルノートを10名様にプレゼント!!
※デザインはお選びいただけません。

10名様

今号の特集記事からの出題です

Q 演じる側も観る側もハンデを持つ実験コメディー芝居のタイトルは?

『○もなく　○しくもなく　○しくもなく』

■応募方法
クイズの答えと下記の必要事項をご記入の上、ハガキ、ファックス、Eメールのいずれかでご応募ください。
①氏名(ふりがな) ②郵便番号 ③住所 ④電話番号
⑤本紙へのご感想やご希望、ご質問など
正解者の中から抽選で10名様に景品を発送させていただきます。
当選者の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。
※読者のみなさまからいただいたご意見を「i-co」紙面でご紹介する場合があります。予めご了承ください。

■応募締切
2014年10月31日(金)消印有効

■応募先
〒590-0115
大阪府堺市南区茶山台1-8-1
ビッグ・アイ「i-coプレゼント」係
FAX 072-290-0972
Eメール i-co@big-i.jp

個人情報の取り扱いについて…ご応募の際にお預かりする個人情報については、個人情報保護関係法令を遵守し、本紙の運営・実施の目的以外には使用いたしません。

ビッグ・アイ BiG-i 国際障害者交流センター International Communication Center for Persons with Disabilities

編集・発行　国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)広報
〒590-0115　大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962　FAX 072-290-0972
発 行 日　2014年9月15日

EVENT CALENDAR

情報保障等のアイコン表示
手話　点字　音声ガイド　音声補聴　要約筆記　日本語同時通訳

10 October

11日[土]・12日[日]・13日[月・祝]
各日13:00～16:30

大阪府障がい者芸術・文化フェスタ2014

▶出演:障がい者アーティスト35組(予定)
▶場所:多目的ホール▶無料▶申込不要
▶問合せ　フェスタ係　072-290-0962

11 November

15日[土]・16日[日] 各日10:00～17:00

第12回 共に生きる障がい者展

▶場所:多目的ホールほか▶無料▶申込不要
▶問合せ　大阪府障がい福祉室　06-6944-2362

16日[日] 13:00～16:30(予定)

大阪府障がい者芸術・文化コンテスト2014

▶出演:障がい者アーティスト9組(予定)
▶場所:多目的ホール▶無料▶申込不要
▶問合せ　コンテスト係　072-290-0962

16日[日] 10:30～15:00

手で語るストーリー「絵本読み聞かせと手話体験」

▶講師・出演:ビッグ・アイ しゅわ～ズ／大橋ひろえ
▶場所:研修室▶無料▶申込締切:9月30日(火)
▶定員:ワークショップ40名(要申込) よみきかせ会100名(申込不要)
▶問合せ　えほんよみきかせ係　072-290-0962

BiG-i ART FESTIVAL 2014

▶問合せ　アートフェスティバル係　072-290-0962

23日[日]

スペシャルステージ Swing! 13:30～15:00

▶出演:JOY倶楽部ミュージックアンサンブル／松永貴志
▶場所:多目的ホール▶無料
▶申込締切:10月19日(日)▶定員:1,200名

エントランスコンサート 12:45～13:00/15:00～15:15

▶出演:風の宴オーケストラ
▶場所:エントランス▶無料▶申込不要

24日[月・祝]

ビッグ・アイ アートプロジェクト 作品募集2014 表彰式・記念コンサート 14:30～16:30

▶出演:上妻宏光▶場所:多目的ホール▶無料
▶申込締切:10月19日(日)▶定員:1,200名

石見神楽公演「大蛇(おろち)」「塵輪(じんりん)」 12:45～13:55

▶出演:石見神楽佐野神楽社中
▶場所:エントランス▶無料▶申込不要

23日[日]・24日[月・祝] 両日公演

WAHAHA本舗PRESENTS 実験コメディー芝居「名もなく 貧しくもなく 美しくもなく ～最強じゃない2人～」

23日…11:00～12:30／16:00～17:30
24日…11:00～12:30
▶出演:大橋ひろえ／大窪みこえ
▶場所:研修室▶無料▶申込締切:10月19日(日)▶定員:各回80名

18日[火]～24日[月・祝] 10:00～17:00

ビッグ・アイ アートプロジェクト 入選作品展2014

▶場所:バリアフリープラザ▶無料▶申込不要
▶問合せ　アートプロジェクト係　072-290-0962

各事業の情報保障の詳細についてはお問い合わせいただくか、ビッグ・アイ ホームページにてご確認ください。